カトリック
広島教区報

No. 143
カトリック
広島司教区

発行責任者
広報担当
瀧井英昭神父

「点訳版」あります。
お問い合わせください。

広島市中区幟町4-42
広島司教館内
TEL（082）221-6017

シノドスの新たな歩みの定着を目指して

広島教区　アレキシオ　白浜　満　司教

主の降誕と新年の喜びを申し上げます。

昨年２０２５年も、教区の兄弟姉妹の皆さんのお祈りとご支援のおかげで、カトリック教会の通常聖年、また被爆80年に関連する種々の行事や企画を執り行うことができました。神様からいただいた通常聖年の恵みを追い風に、福音宣教に励む「あたたかさのある教会」づくりを目指して、わたしたちの新たな歩みを始めていきたいと思います。今年も、どうぞよろしくお願いいたします。

世界平和記念聖堂のクリスマスの馬小屋

これからの「新たな歩み」とは

昨年4月21日に帰天された教皇フランシスコは、２０２１年から第十六回世界代表司教会議（世界シノドス）の準備を進められ、「シノドス的な教会」づくりを模索する新たな風を、世界の教会に吹き入れました。その成果が２０２４年10月26日に公布された『シノドス最終文書』（日本語版では『シノドス流の教会（交わり、参加、宣教）』）です。そして、新教皇レオ十四世によって、今後の三年間（２０２６年～２０２８年）が、第十六回世界シノドスの延長線上の実施ステージに位置づけられました。それは、『シノドス最終文書』の内容を参照しながら、それぞれの信仰共同体において、シノドスの歩みを定着させていくためです。

前回の教区報（２０２５年11月9日）において、世界シノドスの実施ステージとなる今後の三年間の歩みについて、その概略を紹介させていただきました。そして、広島教区では、昨年12月13日に開催された教区宣教司牧評議会において、公式に①「広島教区におけるシノドス（ともに歩む）体制」と、②「広島教区におけるシノドスの道（実施ステージ）のロードマップ」が採択され、これ

司教メッセージ・じゃけえのう　1～3面
教区の動き・その他　4～5面
うちのイチ押し・オリーブの樹　6～7面
地区便り・海峡からの風　8～10面
青年の活動・ひと粒　11～12面

「じゃけえのう」とは広島弁で「だからね！」という意味。

昨年より、エリザベト音楽大学大学院で、宗教音楽の中でも特にパイプオルガンを学んでいます。カトリックの精神に基づき平和を願って創立された大学で学べること、また世界平和記念聖堂で奏楽奉仕の機会をいただいていることに、心から感謝しています。私の所属する純心聖母会は長崎で創立され、教育を大切な使命として歩んで来ました。その教育の場である純心女子学園は、創立間もない１９４５年8月9日の原爆投下により建物は破壊され、多くの生徒と教職員が犠牲となりました。戦後、同じ場所に学園は再建され、私も教鞭をとった経験があります。オルガンを弾くことは私にとって祈りであり、神への賛美です。音楽は心を癒し、神に近づけてくれるものだと思っています。「平和」への願いでつながっている広島で、誰かの喜びとなる演奏ができるよう、日々研鑽を重ねています。さらにこの学びが教会奉仕に活かされていけば幸いです。どうぞ気軽にお声掛けください。

純心聖母会
シスター　髙橋　美保

世界平和記念聖堂　パイプオルガン

に基づいて12月28日の開始ミサ（通常聖年の閉幕ミサ）から、「シノドス的な教会」を目指す新たな歩みを始めました。この二つの文書は、教区のホームページの「お知らせ」の欄（2025年12月16日）に掲載されています。このシノドス体制とロードマップに従って、各信仰共同体における今後の準備、参加、分かち合いのまとめ等を、どうか、宜しくお願いいたします。

「シノダリティ」・「シノドス的／シノドス流」とは

広島教区においては、間もなく2月23日に開催される「宣教ひろば」が、一つのシノドス的な体験の重要な機会となります。そのために、あまり馴染みのない「シノダリティ」・「シノドス的／シノドス流」という言葉の意味をよく把握しておくことが大切です。広島教区のために前編として、『シノドス最終文書』（2024年10月）―「シノドス流の教会（交わり、参加、宣教）」（第一部～第二部）の要約・抜粋となる資料を、ホームページの「お知らせ」の欄（2025年12月22日）に掲載しています。各信仰共同体における勉強会などで、ご活用いただければ幸いです。また、後編として、具体的な検討課題の提言（第三部～第五部）の要約・抜粋の資料も作成中です。その準備が整い次第、教区のホームページに掲載する予定です。

ここでは、基本となる『シノダリティ』・『シノドス的／シノドス流』という用語の意味や特徴について、『シノドス最終文書』から関連する箇所を紹介したいと思います。

「『シノダリティ』・『シノドス的／シノドス流』という用語は、シノドス（＝教会会議）に集まるという教会の古くから続く習慣より派生したものです。……そのすべての形態に共通しているのは、対話し、識別し、決定するために集まることです」（28項）。

「『シノダリティ』とは、キリストとともに、また全人類に結ばれて、神の国へ向けて、キリスト者がともに歩む旅だということ。また、宣教を志向したもので、教会生活のさまざまなレベルでの集会をもつこと、互いに耳を傾けること、対話、共同識別、キリストが聖霊のうちに生きておられることの表れである合意形成、分担された共同責任のもとでの意思決定で成るものです。……簡単にまとめると、シノダリティとは、教会をより参加型で宣教的にするために、霊的刷新と構造改革の道だと言えます」（28項）。

「シノダリティ」・「シノドス的／シノドス流」の意味を、以下の三つのポイントに要約できると思います。

① キリストとともに、また全人類に結ばれて、神の国へ向けて、キリスト者がともに歩む旅であること。

② 宣教を志向する共同体を目指し、教会生活のさまざまなレベルでの集会を大切にすること。その集会の中で、聖霊の導きを願いながら、互いに耳を傾け、対話し、共同識別し、合意形成をはかり、意思決定を行うこと。

③ 教会を、より参加型で宣教的にするための霊的刷新と構造改革を進めること。

シノドス合言葉

『シノドス最終文書』の説明をもとに、「シノドス的／シノドス流」という概念をもっと親しみ易くするために、広島教区におけるシノドスの合言葉を考えました。

しんの　牧者　キリストの
のぞむ　使命　生きるため
どんな　声も　たいせつに
すすもう　共に　かみのたみ

広島教区における シノドス体制

シノドス的な歩みを始めていく上で、まずシノドス体制を整えることが必須です。これまでの検討を踏まえ、最終的には12月13日に開催された教区宣教司牧評議会において、以下のようなシノドス体制のもとに、今後、取り組んでいくことを確認しました。ここでは、教区レベルの体制を紹介させていただきます。

【宣教ひろば】

広島教区では、シノドス的な体験の機会となるよう、できれば毎年2月23日に「宣教ひろば」を実施して行きます。この「ひろば」という名称には、多くの人がそこに集い、種々の「シノドス的な体験を行う場」という意味が込められています。この「宣教ひろば」は決定機関ではなく、幅広く神の民からの声を聞くための活動です。次に述べる「平和の使徒推進本部」から依頼されるテーマに基づいて、意見を出し合い、分かち合い、その内容をまとめて、「平和の使徒推進本部」へ提出する役割をもつものです。その後、「宣教ひろば」から提出された内容に基づき、必要に応じて企画、立案を行って議案化するのは、「平和の使徒推進本部」の役割で

す。

【平和の使徒推進本部】

（＝シノドス・チーム）

今後、広島教区では「平和の使徒推進本部」が、シノドスの精神を浸透させていくチームの役割を含むものとなります。そして、おもに企画、立案、説明、執行、調整などを行います。この「平和の使徒推進本部」の傘下に三年前に設置されて、世界シノドスや教区シノドスへの対応や調整の役割を担ってきた「シノドス対応調整チーム」が、「平和の使徒推進本部」の中で、その下準備を行う役割を担います。「平和の使徒推進本部」の本部会議は、教区の三つの地区と伯雲協働体の種々のメンバー（司祭、修道者、奉献生活者、信徒）で構成され、司教も顧問として参加して、毎年奇数月に（合計六回）開催されています。この本部会議は、年に二回（6月と12月）開催される教区宣教司牧評議会の準備も行い、また、そこで決定されたことを執行する役割を担います。

【教区宣教司牧評議会】

上述した「宣教ひろば」と「平和の使徒推進本部会議」を通して議案化された課題については、最終的に「教区宣教司牧評議会」において評議し、共同識別を行い、司教による裁可を受けて、意思決定がなされていくことになります。

【教区の日】

毎年9月の「敬老の日」に行われている「教区の日」においても、一つの可能性として、ミサの前後の講演会などを通して、シノドス的な実践の成果（実例）を報告する場として活用していくことを考えています。

以上に述べた体制のもとに、今後の三年間（2026年～2028年）、シノドスの道の実施ステージ（段階）を進んでいくために、わたしたちは、間もなく2月23日に第三回「宣教ひろば」を開催します。

第三回「宣教ひろば」に向けて

今回の「宣教ひろば」は、「各信仰共同体の現状と困難に光をあて、ともに歩むあたたかさのある教会をめざすために、わたしたちはどのような働きに呼ばれていますか」というテーマで開催されます。このときに参考にしていただきたいのが、教区創立百周年を祝う準備として実施した「2020教区代表者会議」（教区シノドス）の多くの提言を要約した「一〇のテーマと三〇のチャレンジ」です。これはすでに、教区の現状を見つめ、そこにある困難に光を当てて、どのようなチャレンジが求められるのか（わたしたちがどこに呼ばれているのか）についての分かち合いになっていました。

さらにさかのぼって、2018年から広島教区で導入された「協働体制」も、近隣の小教区が、ともに協力して宣教のために働く手段となっていました。わたしたちは、このような教区の過去の歩みが、すでに「シノドス的な教会づくり」の試みとなっていたことを心に留めたいと思います。そして『シノドス最終文書』（2024年10月公布）や、その実施ステージにあたる今後の三年間（2026年～2028年）において、世界シノドスの光に照らしつつ、広島教区内におけるシノドス的な歩みの定着を図っていければと願っています。どうか皆さん、宜しくお願いいたします。

■「10のテーマ・30のチャレンジ」（教区シノドス）

〔福音宣教〕

1. 福音の喜びの源泉に立ち帰ろう。
① 主日のミサへの参加と、個人の祈りや黙想の実践
② 神のことばに親しむ（勉強会、分かち合い、聖書の通読や書き写しの推進）
③日々の祈り、広島教区の固有の祈り、信者の心得が掲載された冊子の発行

2. 新たな熱意・手段・表現をもって福音を伝えよう。
④ 津和野の証し人の列聖推進による信教の自由や家庭・共同体の役割の教化
⑤ 情報技術（IT）機能の整備とSNSの活用の推進
⑥ 教区共通の要理書の作成

〔平　和〕

3. 信仰に基づく平和の精神を推進しよう。
⑦祈りによる平和の精神の浸透
⑧高齢者、障がい者、青年、教会から離れている信者への配慮（傾聴と支援）
⑨教区の歴史的な文書、平和に関する資料の収集・保存・有効活用（展示）

4. 環境問題といのちの尊厳の取り組みを積極的に進めよう。
⑩「持続可能な開発目標」（SDGs）、「ラウダート・シ・ムーブメント」の推進
⑪戦争、原爆、核兵器に反対する諸活動の支援
⑫差別、偏見、ハラスメントをなくす学びや活動の推進

〔多文化共生〕

5. ともに歩む「あたたかさ」を「形」にしよう。
⑬他国籍の人々への支援体制（外国語ミサ、信仰養成、生活支援など）の構築
⑭多文化共生に取り組む小教区・地区・教区の担当者をつなぐ
　情報ネットワークの構築
⑮他国籍のグループの諸活動の支援

〔協　働〕

6. 協働の精神を深める教会組織のあり方を考えよう。
⑯協働体制を活性化（人材、財政、行事を共有）する
　ワーキンググループの設置
⑰小教区、地区、教区の各組織の見える化（簡素化）と、情報伝達網の改善
⑱会議のオンライン化や事務のデジタル化の推進

7. カトリック教育機関、地域社会、他教派・他宗教との連携を深めよう。
⑲カトリック教育担当チームを設けて協力体制を図る
⑳「カリタス広島」の構築による地域社会への奉仕
㉑他教派・他宗教の研究機関・活動団体との連携

〔養　成〕

8. 青少年の信仰養成に同伴し、それぞれの召命を開花させよう。
㉒教区練成会、中ブロ高校生大会、召命学校の充実と連携、
　青少年情報センターのあり方の検討
㉓司祭召命を促進する祈りと活動の推進（「一粒会」の普及、召命黙想会の充実）
㉔初聖体後・受堅後の侍者奉仕や教会活動への招き、信仰養成の同伴

9. カテキスタの養成を推進し、その役割を広げよう。
㉕カテキスタの養成コース、ロレンソ会の周知・充実
㉖選任によるカテキスタの奉仕職の導入
㉗種々のカトリック教育機関との連携

10. 司祭と信徒の生涯養成を充実させて、ともに歩む教会をめざそう。
㉘教区司祭の生涯養成（月修、研修会、黙想会、個人的な学び）の推進
㉙大人のための教会学校（ミサ前後の短い学び、巡礼、遠足、発表会の企画）
㉚典礼暦に基づく要理の学びの推進（「典礼と要理」のリーフレット作成）

教区の動き

【2025年度（第二回）広島司教区宣教司牧評議会開催】

昨年12月13日（土）、2025年度第二回広島司教区宣教司牧評議会（以下、教区宣司評）がリモート会議形式と併用で開催された。白浜司教、司祭、修道者、信徒の28人が出席した。会場の広島カトリック会館多目的ホールには評議員25人が集い、3人がリモート接続して予定通りの時間で会議が始まった。教区宣司評は、年2回の重要な会議である。コロナ感染の影響でリモート会議形式が汎用的になった昨今ですが、対面での必要性も各自が認識しており、今回は多くの評議員が会場に集まっての教区宣司評となった。今回の司会・書記は山口島根地区が担当。

教区宣司評は、大西神父の聖書朗読、白浜司教の挨拶と祈りに続いて評議事項から始まった評議事項では、次の各評議内容の説明と評議員による意見交換が行われた。

まず「2028年『教会総会』に向けたシノドス実施ステージの歩み」についての説明の中で、12月28日の「『2025聖年閉幕』と広島教区における『シノドス実施ステージ開始』ミサ」についての説明があり、この日に集まった献金は、山口県宇部市の長生炭坑水没事故の犠牲者（遺骨収集）のために充てることになった。また白浜司教から「シノドス実施ステージの歩み」に関する『日本の教会と広島教区におけるシノドスの道のロードマップ（案）』が示され、まずは今年2月開催の「第3回宣教ひろば」のテーマを、日本の教会に向けて示されたテーマに合せて、一部変更することにした。

続いて「広島教区におけるシノドス（ともに歩む）体制」について、白浜司教から説明と提案があった。教皇庁シノドス事務局から全ての教区に設置が求められている「シノドス・チーム」としての役割を、『平和の使徒推進本部』が担うことにしたいとの提案に、異議なく議決した。

次に2月開催予定の第3回「宣教ひろば（2026年2月23日）」について、内容や注意事項の説明と意見交換が行われた。当日の『霊における会話』のテーマは、「信仰共同体の現状と直面している困難に光をあて、ともに歩むあたたかさのある教会をめざすために、わたしたちはどのような働きに呼ばれていますか。」

次の評議事項は「Pax Christi Hiroshima（パックス・クリスティ・ヒロシマ：PaCH）の立ち上げ」について、内容説明と意見交換ののち、立ち上げのための準備を開始することを議決した。

PaCHは2025年の聖年および被爆80周年を記念して「Pax Christi international」の準会員団体として設立を検討。核兵器のない平和な世界の実現を目指す広島教区の取り組みを推進するため、「平和の使徒推進本部」の傘下に配置する予定。

評議事項の最後は、継続中の教区の優先課題のひとつ「教区共通カテキズム作成」の現状報告と今後に対する意見交換が行われた。白浜司教から「以前、三つの地区が分担して作成した初聖体・堅信・結婚のためのカテキズム（案）は、他の文献からの引用や要約が多く、そのままでは印刷することができない。現在は、中断されたままである」と説明。事実上の休止状態であることを踏まえ評議員の意見は、共通カテキズムの必要性に乏しかった。そのため今まで関係した方たちと調整を図り、今後の方向性を検討することになった。

教区宣司評の後半は報告事項が行われた。

まず各委員会からの報告があった。「召命促進」からは2025年召命学校の報告と次回の案内（2026年3月20日～21日：幟町教会で）、「津和野の証し人列聖」からは現在の状況報告、「青少年育成」からは青年活動企画室からの報告と昨年の練成会報告があった。

また「カリタス広島」からは、専用のパンフレットが完成したこと、教区公式

ホームページに専用ページがオープンしたことの報告があった。

更に広島教区百年史に関する報告、各地区・伯雲協働体・教区修道女連盟からの報告に続いた。教区修道女連盟からは、昨年12月7日午後、広島カトリック会館で会員対象の研修会を開催したことの報告があった。参加した各自は、置かれている場で「信仰、希望、愛の小さな火を灯していきたい」気持ちが強められたとのこと。

報告事項の最後は平和の使徒推進本部から「2025聖年助成金」の会計報告があった。

以上のことが話し合われ、祈りと祝福のうちに三時間の教区宣司評を閉会した。

なお、次回（2026年度第一回）教区宣司評は、6月13日に開催予定。

本記事に関する質問などは平和の使徒推進本部まで。

（平和の使徒推進本部）

第３回広島教区「宣教ひろば」開催のご案内

広島教区で開催する教区シノドス「宣教ひろば」も第３回目を迎え、今回は地区単位での集いとなります。さて私たち広島教区民も、コロナの時代を経てようやくかつての教会活動を取り戻すことができてきています。これまで教区の羅針盤であった「司教教書」がこの３年どのように進められてきたか、一度立ち止まって振り返る時期に来ていると思います。その上で、世界シノドスで始まった「霊における会話」の手法を学びながら、皆さんお一人おひとりが、キリスト信者としてシノドスの歩み（教区シノドス、世界シノドス）をどのように生きることに呼ばれているかについて、３地区に分かれて分かち合いを進めていただければと思います。

開 催 要 領

(1) 開催日時：2026年2月23日（月・祝）13:00～17:00

(2) 開催方式：原則として各地区１箇所に集合し、それぞれをZoomで繋いで開催

(3) 参加者：各小教区司祭、助祭、修道者、地区宣教司牧評議会にご参加の信徒の皆様、その他参加ご希望の方。参加者は各地区にて決定されます。

(4) 当日スケジュール

12:00～13:00：参加者登録

13:00～開催挨拶

13:10～座談会

14:30～「霊における会話」（各地区にてグループ別に）

テーマ「信仰共同体の現状と直面している困難に光をあて、ともに歩むあたたかさのある教会をめざすために、わたしたちはどのような働きに呼ばれていますか。」

16:10～各地区からのまとめ発表、司教メッセージ、祝福（Zoom）、解散

広島教区におけるシノドスの道（実施ステージ）のロードマップ

2025 年 12 月 28 日　（広島）**シノドスの道（実施ステージ）の開始ミサ**（2025 年・聖年の閉幕ミサ）

2026 年　2 月 23 日　（広島）**第３回「宣教ひろば」**：

> テーマ「信仰共同体の現状と直面している困難に光をあて、ともに歩む
> あたたかさのある教会をめざすために、わたしたちはどのような働きに呼ばれていますか。」
> ※「2020 教区シノドス」後にまとめられた「10 のテーマと 30 のチャレンジ」を参照しながら、各信仰共同体の①現状について、②困難について、③どこに呼ばれているのかについて分かち合う。
> その後、6 月の教区宣教司牧評議会までに分かち合いの報告書をまとめる。

2026 年　2 月 24 ～ 25 日（日本）全国シノドス担当者の研修会（福岡カテドラル）：
テーマ「みんなでつくろうシノドスの教会」
※①現状についての問いかけ、②困難についての問いかけ、③どこに呼ばれているのかの問いかけ

2026 年　3 月～ 12 月

> （広島）**各信仰共同体レベルでも、自主的な分かち合いを奨励**（第 3 回「宣教ひろば」と同じテーマで）
> ※各信仰共同体で分かち合いがなされた場合、報告書を 2026 年 1 月末までに、平和の使徒推進本部へ提出する。

2027 年　1 月～ 2 月　（広島）（各信仰共同体での自主的な分かち合いの報告書を、第 4 回「宣教ひろば」までにまとめる）

2027 年　2 月 23 日　（広島）**第４回「宣教ひろば」**（教区における評価集会）：テーマは未定

> ※各信仰共同体から寄せられた報告を分かち合い、共有し、優先事項や手段などを評価する。

2027 年　3 月～ 6 月　（広島）教区における評価集会（第４回「宣教ひろば」）の**報告書の作成**（6 月には中央協議会へ提出）

2027 年　7 月～ 12 月（日本）全国レベルでの評価集会（日本のシノドスのつどい）

うちのイチ押し！

Vol.3　岩国教会

広島教区の皆様、主の御降誕おめでとうございます。

うちの教会の特徴は色々ありますが、その大きな一つは国際色豊かという事でしょう。ご存じのとおり、岩国市には米軍基地（ベース）があり、基地と関連企業で働く人が多く様々な国籍の方々が訪れて下さいます。

その家族の子どもたちが私たちの教会のイチ押しです。普段のミサでもアメリカ、インド、インドネシア、フィリピン、ルワンダ、そして日本人の子どもたちが賑やかにしてくれます。昨年度、今年度の夏に子どもたちの為のＢＢＱと水遊び会を開きました。およそ15～20名の子どもたち、大人たちも含めると40～50名の参加者で大賑わい。簡易プールで水遊び、かき氷、ＢＢＱと大はしゃぎ。まだまだ幼稚園児や入園前の子どもたちが大半ですが、数年後の教会はもっと賑やかになることでしょう。数年後には久しく休眠状態であった教会学校も復活できるかもしれないと期待に胸を膨らませております。

小さな教会ですが、子どもに恵まれた教会となっています。今いる子どもたちの中から将来の教会を支える信徒、修道者、司祭が生まれるかもしれません。明るい未来の可能性に満ちた教会と言えるでしょう。

「子どもたちを私のところに来させなさい」と言われたイエス様のように常に子どもが笑顔で過ごせる教会をこれからも目指して行きたいと思います。

主任司祭　久保裕己

水遊び会の様子

noboricho biblion
OLIVE TREE
幟町書院
オリーブの樹

スタッフおすすめ！

冬こそ！

ゆっくり　ゆったり
しませんか

チョコレートの美味しい季節となりました。

夏はお休み、のチョコ系のおやつも揃っています。あれこれ食べくらべてみませんか？

日本初の国産パスタともいわれている「ド・ロさま　長崎スパゲッチー」。

もちもち食感で、ソースとよく絡む！ と麺好きスタッフも太鼓判！本場のレシピで試してみるのはいかがでしょう？

「ド・ロさま　そうめん」もあります。

体の中から温めるには、これ！
修道院で採れた季節のハーブで作られたハーブティー。

体調や気分に合わせてお好きな組み合わせをどうぞ。

温まること間違いなし?!

寒さは足元から。
あったかフェルトのスリッパは、すべてカルメル会シスターの手作り！

お祈りと愛情たっぷりで冷え知らず。
冬はこれじゃなきゃ！ の熱い声があちらこちらから聞こえてきます。
スタッフもリピーターです。

少し体を動かそうかな？
お出かけの時はお忘れなく。

反射板で自分も周りも安心安全に!

光ると浮かぶその文字は…

“I'm the light of the world”
～わたしは世の光である～

よもやまオリーブの樹

世界平和記念聖堂敷地内の書院が「オリーブの樹」として再始動してから、早くも半年が経ちました。経営はサンパウロが担い、運営は教区職員やサラームの方々が協力して行う体制です。幟町教会や広島教区の信者の皆さまはもちろん、観光で訪れる方や、かつてパウロ書院を利用されていた街の方々も足を運んでくださり、書院は静かににぎわいを取り戻しています。かつてシスターたちが大切に育ててこられた場所であることを、懐かしげに語られる方も多く、その思いに触れるたび、この書院が積み重ねてきた歴史の重みを感じます。

日々書院に立つ中で、もっとも大変だと感じるのは、実は…腰痛です。かつて雑貨店に勤務していたこともあり、このような接客や品出しには懐かしさも覚えますが、立ったり座ったりを繰り返しながら納品を開ける作業は、思いのほか腰に響きます。半年の積み重ねは正直で、レジカウンターでこの記事を書いている今も少し痛みを感じています。（いてて。）

なんてことを考えていたら、いつも笑顔で寄ってくださる信者さんが貼るカイロを差し入れてくださいました。腰に貼って、じんわりあったかです。神様…!!今日もしっかり見られておりますね。

このように立ち寄ってくださる方々との出会いはいつも温かく、続けていく力になります。今日の出来事を話してくださる方、聖品を選びながら大切な思い出を語られる方――ささやかな会話が、この場所が再び息を吹き返していることを実感させてくれます。腰をさすりつつではありますが、誰もが気軽に立ち寄れる書院であり続けるよう、できる範囲で、これからも静かに関わっていければと思っています。

青年活動企画室　益田なお

地区便り

山口島根地区

コンサートの様子（防府教会）

として、子ども達や保護者、園の先生、ゴスペル教室の方々が集まり賛助出演させていただきました。稲葉照美先生の力強い御指導のもとゴスペルを歌いながら、神さまに愛されている喜び、感謝を一生懸命表現し、会場内は神さまの恵みで温かく包まれているようでした。

歌って祈る人は、二倍祈ると言われます。祈りをのせた歌声は、平和に導く一歩。世界中の人々がクリスマスを笑顔で迎えることが出来ますように、祈りを込めて。

防府教会　吉武瑞恵

＊防府教会
クリスマスチャリティーコンサート

防府教会は、教会学校が盛んに行われています。また幼稚園も毎週のように聖堂訪問が行われ、子ども達は神様のことが大好きです。

そんな中、毎年恒例の教会主催のクリスマスチャリティーコンサートが行われました。支援先は『核なき世界基金』で、防府市民合唱団さんやバイオリニストの八木資義さんと一緒に、『防府ミカエルクワイア』

岡山鳥取地区

＊広島平和行事への参加について
岡山鳥取地区正義と平和推進チーム

昨年は昭和100年、戦後80年、被爆80年の節目の年ですが、世界の現状は核兵器使用の恫喝が平然と行われている戦争を誰も止めることが出来ない状況です。また昨年は25年に一度の聖年であり、テーマは「希望の巡礼者」でした。私たちのカテドラルである世界平和記念聖堂への平和巡礼は例年にも増して重要なもの…との思いを胸に、神父・5小教区の信者全44名がバスで平和巡礼に参加いたしました。巡礼に参加出来ない方々も祈りながら折った7小教区からの「祈り鶴」17050羽も持参し、平和祈願ミサで奉献いたしました。ミサの前に行われた「被爆者団体と日米韓有志司教の平和集会」での各国司教、枢機卿の被爆者に対する思いは胸を打つものがあり、レオ十四世新教皇様にも思いが伝わっていただきたいと感じました。

世界平和記念聖堂の前での集合写真

伯雲協働体

＊第43回平和祈願ミサ
～永井隆博士を偲んで～

「平和祈願ミサ～永井隆を偲んで～」が、昨年11月24日（月祝）に島根県雲南市三刀屋町永井隆記念館で、行われました。

司式は、白浜司教様をはじめ、出雲教会　アルベルト神父様、松江教会　野中神父様、米子教会　ロルダン神父様、倉吉教会　肥塚神父様、山陰協力司祭　野嵜神父様、三次教会　アルナルド神父様の6人の神父で行われました。

昨年は11月23日が日曜日となるため、1日ずらして24日の開催となりました。戦後80年という事で、伯雲協同体（出雲・松江・米子）だけではなく、岩国、大阪、倉吉、広島からの信者さんの参加もあり、60名以上の方と一緒にミサを捧げることができました。

ミサの中では、出雲、松江、米子、外国籍の方が、それぞれ①戦争犠牲者及び被害者のため、②全世界の平和のため、③雲南市の方々のため、④日本在住の外国の方々のための共同祈願を各自が考えてくださり、参加者みんなで祈りました。

ミサ後、「永井博士の軌跡」のDVDを鑑賞し、その後、永隆隆博士生い立ちの家でボランティアガイドをされている須山弘二様に永井博士のご両親の話や博士の子ども時代のお話をしていただきました。

永井博士の軌跡を追いながら、改めて平和について考える時間となりました。

永井隆博士記念館での
平和祈願ミサの様子

広島地区

似島平和資料館

＊被爆80年　ヒロシマで平和を考える　～軍都廣島を巡る～

10月4日（土）平和の使徒推進本部　正義と平和デスク主催で平和を創る人々の集いを行いました。タイトルは「被爆80年ヒロシマで平和を考える　軍都廣島を巡る」で似島宇品のフィールドワークを開催しました。参加者は12名、幟町教会を出発し、宇品港からフェリーで似島に渡りました。似島では日清戦争の帰還兵の検疫のた1895年に陸軍似島検疫所が置かれ、第二次世界大戦終了直後まで使用。原爆投下直後は被爆者が収容され、軍事遺構が残されています。似島では似島歴史ボランティアガイドの方に詳しく、陸軍検疫所の歴史的な説明をして頂き、新たな発見がありました。検疫所ではコレラ等の伝染病にかかった兵士は隔離され、伝染病棟に入ります。その伝染病施設が現在の広島市立舟入病院に受け継がれ、今も舟入病院は伝染病患者を受け入れていることを知りました。

原爆投下直後は多数の被爆者が検疫所に運ばれ、救護所となりましたが、多数の被爆者が命を落とされたことを知りました。その後、平和資料館を見学し、祈りを捧げました。

帰りは似島学園前からフェリーに乗船し、宇品の陸軍桟橋、比治山の陸軍墓地を見学しました。最後に身近な似島が初めて知ることばかりで、改めて、軍都廣島の歴史を知り、関心を持つことの大切さを感じました。

＊広島地区　正義と平和推進チーム２０２５講演会「パレスチナで生きる人々とともに」

昨年10月5日（日）カトリック幟町教会で広島地区正義と平和推進チーム主催でサラーム（パレスチナの女性を支援する会）の水本敏子さんによる講演会を開催しました。

参加者は約60名、講話のタイトルは「パレスチナで生きる人々とともに」と題して映像を交えてお話をして頂きました。１９９５年春に日本を出発されて、１９９５年から２０００年、国際協力ＮＧＯ「地に平和」パレスチナの女性自助自立のプロジェクトに参加、２０００年から２０２１年11月まではサラームのメンバーとしてヨルダン川西岸地区イドナ村の女性たちの支援活動をされ、現在もパレスチナの女性たちの支援をされています。

パレスチナに興味を持ったきっかけとなる方との出会い。１９９０年8月2日にイラクがクエートに侵攻した時は大阪の正義と平和の発案で難民を民間機で移送することとなり、募金を呼びかけ、1億2千万円が集まり、4機のチャーター機で５６４人を移送した。その後、１９９１年2年27日に停戦。残った募金で「救援プロジェクト」として難民の救済に当てられました。その当時のパレスチナの人々の貧しい暮らし、イスラエルとパレスチナの水の一人当たりの使用量の違い、パレスチナ人は検問でイスラエル兵に監視されていることを知ることができました。また、パレスチナの女性の自助、自立のため、刺繍による手芸品の製作、販売の支援をされたことをわかりやすく、説明して頂きました。

講演会の様子　幟町教会マリアホール

最後に若い人からの質問があり、幅広い層からの関心の高さを感じました。

＊広島キリシタン殉教祈年祭のご案内

2月11日（水・祝日）9時30分から広島市西区己斐東ノートルダム清心学園入り口にある殉教碑前での祈り、10時15分より観音町教会での殉教祈念ミサ、ミサ後、山根敏身神父（津和野教会主任）による講演会が行われます。

この行事は、殉教碑にも名前が刻まれている3人の殉教者、フランシスコ遠山甚太郎、マティアス庄原市左衛門、ヨアキム九郎右衛門を祈念して行われます。

＊広島地区ベトナム青年の活動

11月2～3日、ベトナム青年30名が1泊2日で下関・山口・津和野教会へ聖年巡礼をしました。

早朝、幟町教会に集合、世界平和記念聖堂で祈りと歌を捧げた後、マイクロバスと乗用車に分乗して下関・山口・津和野教会を訪問、現地のベトナム青年とミサと交流会をし、お互いを励まし合いました。

祈りと交流・分かち合い、楽しい充実した巡礼となりました。

＊広島地区フィリピン共同体の活動

11月2日14時30分から「死者のための英語ミサ」を行いました。

献花台を作り花を飾り、家族が亡くなった方の名前をカードに霊名と名前、亡くなった日を記入しボードに貼り死者を追悼しました。

世界平和記念聖堂入り口で祈りを捧げた

78 海峡からの風

下関労働教育センターだより

年の暮れにさしかかったある日、嬉しいことがありました。アジア太平洋地域の仲間たちと、ミャンマーのために何ができるのか、実際にミャンマーで苦境に立たされている親の声を聞くというミャンマーフォーラムの会議中に、宇部の〝長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会〟の共同代表の井上さんから電話がかかってきて、こう言うのです。「韓国のカトリックの司教団が、遺骨発掘と返還事業に1億ウォンの寄付をしてくれるという報を受けて、私は今嬉しくて飛び跳ねています」と。

何かが実るのには10年がかかる、とあるシスターが言ってくれたのですが、11月は私にとってその実りを少し見る時間となりました。私が韓国に滞在した1年間から10年が経ち、日韓の橋としての活動が山盛りの一ヶ月となりました。日韓の女子修道会の総長会議に同伴し、最終日の夜に日韓のシスターたちで一緒に「希望の巡礼者」を合唱できたことは忘れられません。そして、白浜司教が声をかけてくださり、日韓カトリック司教会議に同行させていただいたことも大きな恵みの時となりました。初日には、井上さんと一緒に宇部の長生炭鉱の跡を案内させていただきました。また翌日の特に朝鮮学校に焦点を当てた私の講話を司教たちは真摯に聞いてくださいました。チェジュ島のカン・ウィル司教が言われました。「話を聞いていて心が苦しくなった。私が日本にいた時、電車の中にチマチョゴリを着て学校に通っている朝鮮学校の生徒がいた。あの時代にそうすることがどれほど勇気がいったことだろうと思う。私たちは朝鮮学校のために何かをしなくてはならない。」そして、最終日の最後の最後に、韓国側の議長のスウォン教区の司教が言われました。「私たち韓国の司教は、長生炭鉱の遺骨返還の活動を経済的に支援することを全員で合意しました。日本の司教団も協力をよろしくお願いします。」この言葉で司教会議が終わったのです。私の心に爽やかな風が吹き抜けました。この20年以上続いてきた司教会議に吹いてきた聖霊の風を感じたのでした。

私の活動も、地球を癒すという活動にエネルギーを注ぐことによって、深い次元に入ってきたように思います。すべてのことは繋がっているという三位一体の神秘を少しずつ体験しているように思います。出版された「エコロジカルな回心のための霊的な旅路」を使って、周防大島の祈りの家でキャンプする三日間の時間は、新しいメンバーたちが足を運んでくれ、星のきらめく星空に包まれながらの素晴らしい時となりました。仲間たちで一緒にこの道を歩んでいくのです。

そして、生活困窮者のための食堂が、ロクスひよりやまで、そしていのちの関門ネットで始まりました。いろんな活動に関わりながらも、すべてはつながっているという神秘の中で、私は私が奏でることのできる音となって神様に使っていただいているのを感じます。星空の歌に耳を澄ます。（中井 淳 神父）

第10回 UISG日韓総長会が広島にて開催されました

第10回ＵＩＳＧ日韓総長会が昨年11月5日から8日の日程で開催されました。

日韓総長会とは、韓国と日本国に本部を持つ修道会総長方の交流を指す集まりです。ローマで開催される3年に1度のＵＩＳＧ（国際女子修道会総長連盟）総会では、地域別の会合が行われています。また、日本と韓国は東北アジアのグループで、ＵＩＳＧ総会後に日韓総長会を開催しています。２０２５年のテーマは「奉献生活　変革をもたらす希望」で、広島教区カトリック会館をメイン会場に講話や会議が行われました。30余名のシスター方が広島市内を移動される姿に、驚かれた方もいたようです。ミサや教会敷地内で、韓国と日本のシスター方の友好的な姿を目にしたり、言葉を交わしたりできたことは私たちにとってもよい学びとなりました。これからも共に、東北アジアの平和のために祈っていきたいと思います。

「尽きることのないキリストの光を、小さな光を通して、全世界に広げてほしい。」とレオ十四世教皇は修道者に伝えられました。

これからも、小さな光がまわりの方々にもたらされることを願っています。

世界平和記念聖堂の祭壇前

青少年の活動

高校生、集まれ！

いつも青年活動へのご理解とご協力を、心よりありがとうございます。

今年度、第60回を迎える中国ブロックカトリック高校生大会（以下、チューブロ）の参加募集が始まっております。【申込締切：2月28日（土）】

今回のテーマは「PIECE of PEACE」。

記念すべき節目の大会として、広島教区らしく「平和」をテーマに掲げました。講師には、名古屋教区より松浦悟郎司教様をお迎えします。

8月の平和行事ユースプログラムにおいてお話を伺った際、戦争反対、そして憲法9条を守らなければならないという明確なお立場から、ご自身のご経験と深い知見に基づいて語られるその説得力に大きく心を揺さぶられました。

「このお話は、ぜひ多くの高校生たちに聞いてもらいたい」――そう強く感じ、今回のオファーをさせていただきました。

今回は枝の主日を挟む開催日程となり、ご多忙な時期にもかかわらず、ご快諾くださった松浦司教様に

は、心より感謝申し上げます。

また、早い段階からプログラムのご相談に応じてくださり、PR用の動画撮影にもご協力いただくなど、開催前から大変気持ちよくお力添えをいただいております。

「平和」は私たちにとって身近なテーマである一方、実際になにか行動しようと考えると、あまりに壮大で、「なにもできないのではないか」「なにも変わらないのではないか」と、正直なところ諦めかけてしまいそうになることもあります。

そのような中で、今回のチューブロは、私たちカトリック教会が目指す「平和」とはどこにあるのかを見つめ直し、そこから共に「平和」について考えていく、とても大切な機会になるのではないかと、私自身も大きな期待を寄せています。

ぜひ、皆さまの周りにおられる中学3年生から高校3年生の方へ、本大会をご紹介いただき、参加を後押しいただけましたら幸いです。

この節目のチューブロが、若者一人ひとりにとって「平和」を自分ごととして考える大切な時間となりますよう、どうぞお力添えをよろしくお願いいたします。

（青年活動企画室・益田）

申込QRコード

ひと粒〈127〉

あたたかさ

防府教会
英　隆一朗　神父（イエズス会）

4月から初めて広島教区で働いています。今は防府教会で働いています。教会には大きなバナーが掲げてあります。「ともに歩むあたたかさのある教会をめざそう」と「あたたかさの源泉に立ち帰る」の2本です。キイワードが「あたたかさ」ですね。この言葉がなかなかよいなと思っています。

聖書の語句検索をかけてみると、「あたたかさ」や「あたたかい」は出てきません。聖書用語ではないです。しかしながら、日本語としてとても心に響きます。特に、冬の寒さの中でこそ、この言葉は心に染みてきます。私たちにとって、あたたかさは何か、あるいは、あたたかさの源泉は何でしょうか。それを皆で黙想し、霊的会話をしてみたいです。

私自身にとって、何があたたかいか考えてみると、まずは神との交わりです。一人でゆっくり祈りをささげるとき、心があたたかくなり、励ましや平安を感じます。ミサのような共同の祈りでも皆であたたかさを味わうことがあります。また、若い頃、友人たちといっしょに活動したり、クリスマス会をやったり、わいわいと楽しくあたたかい交わりを経験しました。今でも教会の信者とのつながりや司祭同士の友情の中であたたかさを感じます。そして、小さい人びとのかかわりを通してあたたかいものを分かち合います。

現在社会では、心の冷たさが広がりつつあります。格差社会による社会の分断、地域共同体が崩壊してバラバラになった孤独感、ネットでの匿名攻撃、狭い愛国心から外国人を排除しようとする動きなどなど、社会全体が冷たくなってきました。今こそ真のあたたかさが必要でしょう。

あたたかさを象徴的に歌っている歌があります。森進一の「襟裳岬」です。冒頭は、「北の街ではもう悲しみを暖炉で燃やしはじめているらしい」で始まり、「歳月を集めてあたため合おう」です。私たちが教会で悲しみや苦しみを燃やしてしまい、その熱であたたまることができれば最高ではないでしょうか。この歌の最後は、「寒い友だちが訪ねてきたよ。遠慮はいらないから、あたたまってゆきなよ」です。寒さや冷たさをかかえている人が教会を訪ねてきたとき、遠慮なしに神の愛にあたたまっていけたら、それこそがあたたかい教会ですね。そのような教会であるように願っています。

風紋

サビフェスやチューブロを通して、信者でない方に神様についてお話しする機会が増えてきました。その中でずっとあったのが、「神父でもシスターでもない私が話すの？」という違和感。最近、一つの言葉が心に佇み始めました。「やるしかない。」今年、覚悟とともに歩きはじめます。どうかお祈りください。